深谷　靖子さん（大阪）

児童デイサービスでのセッションについて
児童デイサービスでのセッションは、１時間のグループセッション（１０名）と30分の個人セッションにわかれています。
どちらのセッションでも私とのピアノ連弾を取り入れ、子どもの自由な演奏に伴奏をつけるようにしています。

　グループでは待つ力をつけさせるために、あえてグループセッションの中に１人づつ行うプログラムを組み込んでいます。
「次は自分かな、、、、。」と予想しながらも違う、お友達の名前が呼ばれてがっかりもしますが、うまく気持ちをコントロールできるようにしています。ここでの一番人気がトランポリンです。
ピアノ伴奏に合わせてジャンプをし、最後にジャンプをして床につくタイミングとピアノの演奏が揃うように
子どもとアイコンタクトをとりながらタイミングを合わせています。

　音楽を聴かずに自分勝手にジャンプしていると全くピアノと合いませんが、ジャンプをしながら「そろそろ終わりかな？」と伴奏者の方を向いてくれたりすると、だんだん子どもと伴奏者の息が合うようになってきます。

　児童デイサービスでの音楽療法は保護者がいらっしゃらないので、セッション後はその時の様子を動画や写真で見ていただくようにしています。
　私は障がい児（者）の音楽療法を専門にさせていただいていますが、まだまだ未知の問題も多く、迷いながらのセッションになっていると思います。

これからも音楽療法の勉強を続けていき、もっと自分が自信を持ってセッションできるように努力したいと思います。